

気候変動

森本清一郎



19

よる相殺を認め、基金はこれに対して、リベリ
脱炭素燃料・技術への還
付金と途上国支援に活用
する制度を提案。ブラジ
ルは、当初2年間は拠出
金収入が多く発生しない
よう規制値を緩和し、収
入はIMO基金ではなく
他の国際機関に運用を委
託する制度、日本はIM
案。ツバルは、原案の大
らの論点が依然残る。
く進んでいることを踏ま
だ。それには、代替燃料
のGHG強度や環境価値
の認証方法などガイドラ
インに関わる検討の進展
が不可欠だ。
相殺方法は、昨年始ま
った「FuelEUマリ
タイム」で船舶間の融通
（プリーング）が問題な
く進んでいることを踏ま

カナダ・豪州などは昨年10月に審議された原案のOの目標と整合する範囲幅な変更が審議される場合、基金の代案として、ユニット取引は認めずに、全排たプロジェクトへの拠出による相殺を認める制度を要協案として提案している。

IMO基金への拠出には、昨年10月の審議では、

規制値は、燃料転換の道筋をどう描くかという問題であり、IMOの目標と整合する形でLNGやバイオ燃料など実用的な代替燃料を活用する絵姿を共有できるかが課題

の代案があるものの、議論の先行きを見通すのは難しい。最終合意が得られるかどうかは、原案の支持国と懸念を持つ国々がお互いに歩み寄れるかどうかにかかっている。

の代案があるものの、議論の先行きを見通すのは難しい。最終合意が得られるかどうかは、原案の支持国と懸念を持つ国々がお互いに歩み寄れるかどうかにかかっている。